



◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。

北上川と共に生きた平泉文化 第2弾

— 栄華をきわめた奥州藤原氏 —

中尊寺や毛越寺で有名な平泉は、平安時代末期(1100年頃~1189年)に奥州藤原氏の活躍により、京都に次ぐ大都市として大変栄えました。

平泉の発展を支えた北上川

母なる川・北上川は12世紀の平泉に大きな影響を与えた

北上川と平泉



- 北上川を通して、東北の産物は各地に運ばれました。そして逆に、東海地方や京都・中国など遠く離れた場所の、様々な物や文化が取り入れられました。そのため平泉では独特の歴史が作られていったのです。
- 平泉には、舟運の拠点となる川湊がありました。また、北上川の近くには、政庁など都市の中心的施設がありました。
- 北上川の東岸地域には穀倉地帯が広がっていました。北上川では、漁も盛んに行われていたようで、遺構からは鮭に寄生する寄生虫が確認されています。北上川は、地域の食生活においても重要な役割を担っていたようです。

※遺構…昔の人びとの活動の痕跡

平安時代末期における主な出来事

平泉	日本
1051年(永承6) 前九年の合戦、起こる	1053年(天喜元) 平等院鳳凰堂建立
1062年(康平5) 前九年の合戦、終わる 安倍氏滅亡	
1083年(永保3) 後三年の合戦、起こる	1086年(応徳3) 院政の始まり
1087年(寛治元) 後三年の合戦、終わる 清原氏滅亡	
1094年(嘉保)~1103年(康和年間) この頃、清衡、豊田館から平泉に移る	1098年(承徳2) 源義家、昇殿を許される
1105年(長治2) 清衡、中尊寺の講堂造営に着手	
1128年(大治3) 清衡、没	1132年(長承元) 平忠盛、昇殿を許される
1138年(保延4) 清衡、亡父清衡供養のため「十部一日紺紙金字法華經」を写経する	1156年(保元元) 保元の乱
1157年(保元2) 基衡、没	1159年(平治元) 平治の乱
1170年(嘉応2) 秀衡、鎮守府將軍に任ぜられる	1167年(仁安2) 平清盛、太政大臣に任ぜられる
1174年(承安4) 源義経、平泉に下る(16歳)	
1176年(安元2) 秀衡、亡父基衡供養のため「紺紙金字法華經」を写経する	1180年(治承4) 源頼朝、平氏を討つため挙兵
1181年(養和元) 秀衡、陸奥守に任ぜられる	1185年(元暦2) 壇ノ浦の戦いで平氏滅亡
1187年(文治3) 義経が平泉に滞在していることを頼朝に知られる 秀衡、没	1192年(建久3) 源頼朝、征夷大將軍に任ぜられる
1189年(文治5) 泰衡、家臣に討たれる 奥州藤原氏滅亡	

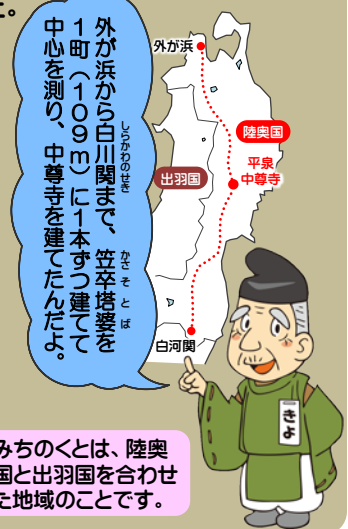
浄土都市 平泉

平泉はみちのくの中央にあり、水上と陸上交通(北上川と奥大道)の要衝でした。街は歴代の奥州藤原氏によって整えられていきました。

奥州藤原氏の初代清衡は、金や馬など豊かな資源を供給し、京都に干渉されない平和な浄土を目指しました。そして、「仏教による平和社会の構築」という清衡の理念は、代々受け継がれたのでした。

※浄土… 仏教の考え方で、仏のいる清らかな理想世界

※笠卒塔婆… 亡くなった人を供養するためにつくられた石製の塔



みちのくとは、陸奥国と出羽国を合わせた地域のことです。

次回、第3弾、第6弾は、この奥州藤原四代についてご紹介します。

私は、秀衡の子・泰衡。父の死後わずか2年で源頼朝に倒されてしまったんだ。ひいじいちゃん清衡が平泉に来てから100年経たずに奥州藤原氏は滅びたけど、何とか平泉文化を守ったよ。

私は、基衡の子・秀衡。毛越寺を完成させたばかり、無量光院などの寺院造り都市・平泉を完成させた一北方の王者だよ。

私は、清衡の子・基衡。父の遺志を継ぎ毛越寺の造営を開始したのだが、全体の完成を見る前に亡くなってしまったんだ。

私は、藤原清衡。豊田館から平泉に拠点を移し、争いのない浄土を造りたく中尊寺を建立したのだ。私達の名前は似ている覚えにくいからきみ、もともと、やすでで覚えるといいよ。

私たちが奥州藤原四代です

※バックナンバーはこちら http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/syuttvuyouvo/itinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm ※北上川学習交流館 あいぽーと展示資料より

編集後記 日に日に暖かくなってきましたね、私の周りでは菜の花が咲き始めました。穏やかな風景は心をほっとさせます。☺皆様もぜひ目を向けてみてください(す)